

大会シンポジウム

3月18日(水) A会場(弥生講堂一条ホール) 14:00~17:40

・生物機能からの抵抗性誘導剤の将来展望

共催：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業(農林水産省プロジェクト)「環境調和型病害防除に向けた植物免疫安定化資材の開発」

オーガナイザー：有江 力(東京農工大学大学院農学研究科)

仲下英雄(理化学研究所基幹研究所)

8A-1 病害防除における抵抗性誘導剤の可能性 14:00~14:40

- 新規剤イソチアニルに期待される役割 -

沢田治子(バイエルクロップサイエンス)

8A-2 イネの誘導抵抗性の分子機構 14:40~15:10

- サリチル酸シグナル伝達経路の解明とその利用に向けて -

高辻博志、霜野真幸、菅野正治、姜昌杰、中山明(農業生物資源研究所)

座長(8A-1、8A-2)：石井英夫(農業環境技術研究所)

8A-3 イネいもち病菌の自己感染補助因子 15:10~15:40

- 感染過程解析のツール -

安藤杉尋、田部茂、¹繁森英幸、¹山田小須弥、²清水崇史、²岡田憲典、²山根久和、秋本千春、西澤洋子、南 栄一

(農業生物資源研究所、¹筑波大学、²東京大学)

8A-4 土壌生息菌 *Pythium oligandrum* が生産するエリシチン様糖タンパク質により誘導される感染防御システムの分子機構 15:40~16:10

高橋英樹(東北大学大学院農学研究科)

座長(8A-3、8A-4)：寺岡徹(東京農工大学大学院農学研究科)

8A-5 熱ショックにより誘導される病害抵抗性の機作と利用 16:10~16:40

佐藤達雄(茨城大学農学部附属フィールドサイエンス教育研究センター)

8A-6 発光レポーターを用いた抵抗性誘導剤探索と評価について

- 多色発光遺伝子の活用による高性能化 -

16:40~17:10

平塚和之(横浜国立大学大学院環境情報研究院)

8A-7 全身獲得抵抗性の環境ストレスによる抑制機構 17:10~17:40

- 抵抗性誘導の効果的利用技術の開発へ向けて -

仲下英雄(理化学研究所基幹研究所)

座長(8A-5~8A-7)：有江 力(東京農工大学大学院農学研究科)

3月18日(水) B会場(1号館2階8番教室) 14:00~16:40

・日本発の新植物ホルモン ストリゴラクトン

オーガナイザー：米山弘一(宇都宮大学雑草科学研究センター)

8B-1 ストリゴラクトンの構造多様性と植物界における分布 14:00~14:40

米山弘一、謝 肖男、米山香織、竹内安智

(宇都宮大学雑草科学研究センター)

座長：秋山康紀

8B-2 ストリゴラクトンのアーバスキュラー菌根菌に対する菌糸分岐誘導における構造要求性 14:40~15:20

秋山康紀(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

座長：山口信次郎

8B-3 シュート枝分かれ抑制ホルモンとしてのストリゴラクトンの作用

15:20~16:00

山口信次郎(理化学研究所・植物科学研究センター)

座長：佐々木満

8B-4 ストリゴラクトンの合成と生物活性 16:00~16:20

佐々木満(神戸大学大学院農学研究科)

座長：北畑信隆

8B-5 ストリゴラクトン欠損植物様形態を誘導する物質の創製 16:20~16:40

伊藤晋作、北畑信隆、浅見忠男(東京大学大学院農学生命科学研究科)

座長：米山弘一